

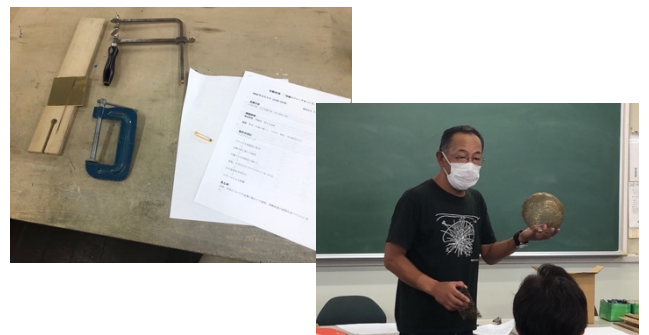
南河内地区【中学部】

日時 8月5日(金) 13:00~16:00
会場 大阪芸術大学 10号館 金属工芸棟(151教室)
内容 金属工芸分野のものづくり
講師 大阪芸術大学 工芸学科(金属工芸)
教授 長谷川 政弘 氏
準備物 真鍮板(厚さ1mm)、ブローチ用ピン、糸鋸、Cクランプ、すり板、金槌、タガネ、ヤスリ、耐水ペーパー、ピカール、半田 など

南河内地区内にある、大阪芸術大学にお願いをして、金工の実技講習を開いていただきました。金属工芸の分野の授業を行うには、準備物や加工技術、安全面などの知識が必要なので初めて扱う時には不安もあり、実践している学校も少ないように思います。今回はその金属工芸の可能性を知る講習となりました。

①金工の基本技術について

鋳金(ちゅうきん)、鍛金(たんきん)、彫金(ちようきん)の技術について知り、金属の種類や特性、加工の手順を教えてくださいました。また、実習室を見学し、設備の説明を聞きました。



②制作

真鍮の板に、アイデアスケッチをスプレー糊で貼り付け、Cクランプで机に固定したすり板の上に置いて、糸鋸で切ります。すり板のセットの仕方や、糸鋸の刃のつけ方、糸鋸の使い方のコツなどを丁寧に教えてくださいました。透かしにする場合は、ボール盤で穴を開け、そこに糸鋸の刃を入れて切りました。金槌やタガネなどでテクスチャーをつけたり、線を刻んだり、部分的に折り曲げたり、さまざまな技法を使って、こだわりのある表現を追求しました。



Cクランプで固定
糸鋸でカット

ボール盤で穴あけ

③仕上げ

ヤスリ、耐水ペーパーで磨き、助手の方の手を借りてブローチ用のピンを取り付けました。薬品で脂分を除き、そこに半田を熱してピンを取り付ける作業は、緊張感がありました。最後に砂やピカールで磨いて完成です。



仕上げ作業の様子

とても完成度の高いものが出来上がり、達成感や満足感を味わえる題材でした。道具さえあれば、授業として扱うことが可能だということもわかり、生徒がより主体的に主題を生成するにはどのようなテーマで取り組むかを考えようと思いました。

【完成作品】

